

原発がこわい女たちの会  
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2014年08月 | トップ | 2014年10月 》

検索

2014年09月16日(火)

 検索

伝える・伝わる

アーカイブ

福島原発事故から3年以上経って、運動の退潮がいられていますが、いっぽうで客観的に事態を見守る余裕、ある種の落ち着き、成熟が生まれているようにも思われます(思いたい)。原発に限らず、抗議型・抵抗型の運動から硬直性を排して、もっと柔軟に、楽しくやろうよ、という論調をあちこちで見かけるからです。

たとえば、作家の池澤夏樹さんは「若い人々よ、動け、闘え、笑わせろ」(朝日新聞9月2日夕刊 終わりと始まり)と言う。外国の例をいくつか挙げて、日本には明らかに過激とユーモアが不足している、と。権力への不服従の意思表示は選挙に限らず様々な手段を使ってよいのだから知恵をしばって効果的なやりかたを考えようよ、と呼びかけています。

文芸評論家の齊藤美奈子さんは、8.15市民フォーラムで左派・リベラル派の主張への「飽き」～子どもたちを戦場に送るなのスローガンなどストンと受容する基盤が失われつつあることを、自覚する必要があると指摘しています。たとえば集団的自衛権問題の伝わりにくさを克服するためには、わかりやすい言葉で、キャッチコピーを工夫し、風刺を交えた笑いの要素を大切に、と提言します。(社会新報9月3日)

朝日新聞9月13日付け高橋若木さんの「デモと民主主義」は、若い世代からの発信。悲壮感漂う弱者の抵抗ではデモから人を遠ざける。旧来的な左翼の運動ではヤッテラレナイ、カッコワルイヨということのようです。そこで、運動のスタイル(主張の内容ではなく)を変えていくことが、政治に無関心な人々を引き付けるのにも大切ではないかと。そのためには、ネットを駆使して、広告的な発想も使って人々の直観的な怒りや不満の感情を大事なものとしてつかまえて行く、怒りは堂々と表明していいということをもデモによって示していく、と主張します。

…インターネット依存のインスタントな情報に短絡的に反応するな、キャッチコピーに踊らされるな、もっと本を読み、せめて新聞を、と現状を軽薄短小として批判する「旧ガンコ左派」の声もあがりそうですが。

ここで、漫画「美味しんぼ」騒動のことを思い出しました。福島県庁など地元はもとより、安倍首相、石原環境大臣(当時)、菅官房長官等の政府要人が次々と批判するなど、漫画叩きは尋常ではありませんでした。私もあわてて掲載誌のビッグコミックスピリッツを買いましたが、読んでみて、いささか拍子抜けした感。というのも「鼻血がドバツとでた」などというのは、脱原発系の講演会や雑誌、ネット上で普通に聞いたり読んだりすることだったので。もちろん放射線と鼻血の因果関係を証明することは困難かもしれないが、関係ないことを立証することはもっと困難であるはず。なによりも「鼻血が出たという事実はない」と断言する人(団体)がいることには呆れましたが。

ともかく  
この問題がこのように物議をかもしたのは何故か？それは、「美味しんぼ」が漫画という文化だから、ではないでしょうか。脱原発系の講演会やネット上で同様の主張が繰り返されても、そこだけの限られた人たちのこと。つまり「脱原発派が騒ぎ立てる」ことに過ぎない。それより、講演会もネットも縁のない「一般人」が目にする漫画のほうが影響力が大きいと見なされたからこそその過剰なバッシングだったという気がします。権力側は、そのあたりのことを、とくとご存じのはず。

脱原発派は「ガチガチの反原発」と「原発はいやだけど声を張り上げることなどしたくない」に二分され、後者が多数派なのだとかで読んだことがあります。このようにきっちりパターン化することなどできるのかなとは思いますが、もしそれが現実ならば、ここは冷静にじっくり考えるほうがよい。自分の意思や意見を表明する方法や場はどのようなものか、それをどのように準備し広げていけば

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

いいのか、しなやかな感性をもって知恵を集めることです。

ところで、  
福島原発訴訟団では、8月8日東京地検へのアピール行動の後、東電本社前に集合して『汚染水』打ち水抗議アクションを行ったというニュース。  
<http://kokuso-fukusimagenpatu.blogspot.jp/>

わおー、すごいこと思いついたね！  
打ち水は、水まきで地面から気化熱を奪って暑い夏を乗り切るための昔からの知恵。節電アピールのため自治体の首頭で実施したりしているけど、「汚染水」で東電ビル前に打ち水とは！  
でも、福島原発訴訟団のチラシには、次の断り書きが。  
**本物の汚染水は使用できません。普通の水で行います(容器に汚染水を示すラベルを貼り代用)。**

オモシロイ！！  
これからの運動には、こういうセンスが不可欠なのだと思う。とくに若い人には。

ついでに、「経産省前テントひろば」でのお笑いごと。  
<http://tentohiroba.tumblr.com/>  
テント日誌8/8版よりかいつまんて記すと…丸の内署の警官が数人やってきて「汚染水」と書かれたペットボトルをどけるとすごい剣幕。テントの脇には打ち水などに使うため水道水を詰めたものが置かれている。メンバーの誰かがこれに「汚染水」と張り紙をし、置いておいたのだ。これを見た通行人が110番して、警官が飛んできたらしい。汚染水ということに皆が敏感になっているということでもある…  
(直に警察に通報するというのもなあ、ですが。)

いろいろ感じることの多かった夏でした。

もうひとつおまけ。夏の終わり9月15日で、**日本の原発がすべて止まって丸1年たちました**。このことをマスコミはほとんど報道しません。大きく報道されると「原発を動かさなくても日本はやっていけるんだね」となるのですがね。  
(sora)

2014-09-16 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2014年09月01日(月)

## ドキュメンタリー映画『シロウオ』～原発立地を断念させた町～自主上映会

「危険な原発は建てさせない」と住民が反対運動を行い、原発計画を断念させた場所が全国に50カ所以上もあります。  
ドキュメンタリー映画『シロウオ』はそのうちの1つ、和歌山県の「日高原発」ともう一つ紀伊水道を挟む対岸にある徳島県「蒲生田(がもうだ)原発」を阻止した人々を対象に、日高と蒲生田の漁師が交流し合い影響を与えながら、お互いに原発立地を断念させた当時のようすを、福島原発事故を経験した後インタビューし、映像にまとめたもの。

2011年3月の福島原発事故の深刻な事態は依然として続き、閉塞的状况にあるといえます。福島原発の惨状から目をそらさず問い続けていかなければなりません。それが、それとともに**原発計画を断念させた反対住民にも目を向けること、そこから活路を探っていけるのではないか**というのが、この映画の企画意図といえるでしょう。

つまり、  
**かつて原発計画が推進されるなか、なぜ原発に反対できたのか。福島で起こった事故をどうみるのか。いま原発のない町で幸せかどうか。**  
ここに原発問題を考える上で大切な示唆が凝縮されている、という思いが基本にあります。

この映画を一人でも多くの方に観ていただき、原発問題について一緒に考えていけるといいなと、思います。  
自主上映を実りあるものにしたいと、現在「上映会」を結成し企画が進められています。  
◎原発がこわい女たちの会でも参加協力券を取り扱います。

2012年09月(2)  
2012年08月(2)  
2012年07月(4)  
2012年06月(4)  
2012年05月(3)  
2012年04月(1)  
2012年03月(1)

### 最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民守 正義(08/21)  
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)  
コメントありがとう by sora(12/05)  
突然すみません。東京 by 里美(11/22)  
10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)  
starさんコメントあり by sora(09/14)  
このブログを読むまで by star(09/13)  
こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)  
現在稼働している大飯 by star(04/09)  
廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

### カレンダー

< 2014年09月 >						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

### 最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13  
琵琶湖集会(11/15)  
汐見文隆先生、ありがとうございます(11/08)  
原発がこわい女たちの会  
ニュース99号発行(10/12)  
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)  
老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)  
ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)  
熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)  
老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)  
原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

原発がこわい女たちの会  
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ  
RSS

ID:

PASS:

サイト管理者

[ログイン](#)

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末  
サービス終了します

日時: 11月29日(土) 14時~ 18時~(2回)  
会場: あいあいセンター6階(和歌山市小人町、☎ 073-432-4704)  
参加協力券: 1000円(高・大学生500円)  
主催: シロウオ上映会

ドキュメンタリー映画『シロウオー原発立地を断念させた町』

製作 2013年  
監督 かさこ  
製作・脚本 矢間秀次郎



長編ドキュメンタリー映画

シロウオ  
~原発立地を断念させた町~

パンフレット表紙より

<http://www.kasako.com/2013eiga6.html> なおここから詳しい資料が見られます。

和歌山県には原発候補地が日高町の2か所を含めて5か所ありました。日高原発は、1988年に比井崎漁協が原発建設のための海上事前調査には取り組まないことを宣言し、事実上、原発計画を阻止しました。その後の町長選では、原発反対の候補が当選し、日高町は以前の平穏を取り戻しました。県内ではほかに那智勝浦、古座、日置川の原発建設計画も反対住民の運動で連鎖的にすべてストップすることとなり、現在に至っています。この辺のことは脱原発わかやま編集委員会編『原発を拒み続けた和歌山の記録』(2012 寿郎社)に詳しく記されています。

(sora)

2014-09-01 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0